



学生代表挨拶

備本 梨加

生活科学部食物栄養学科2年

まず初めに、世界8大学国際学生フォーラムの開催にあたりまして、チェコのカレル大学、タイのチェンマイ大学、中国の大連理工大学、韓国の釜山外国語大学、ドイツのボン大学、ポーランドのワルシャワ大学、アメリカのヴァッサー大学から計14名の学生、さらにチェンマイ大学からは中井仙丈先生、大連理工大学からは王冲先生にご参加いただき、心より感謝を申し上げます。

また、本フォーラムの後援のグローバル教育センターのセンター長の森山先生、ならびに越智先生にも大変お世話になりました。この場を借りて御礼を申し上げます。

さて、グローバル人材育成の一環として、お茶の水女子大学でこの国際学生フォーラムを開催するのも、今回で3回目です。実は、私自身はこのフォーラム開始の3週間程前に、アメリカ・ニューヨークのヴァッサー大学で同様のフォーラムに参加しました。その時は、政治・言語・ボランティアなど、国境を越えて考えを共有するために、身近なトピックで、日本語、英語を織り交ぜながらディスカッションを行いました。すぐに結論がでない話題を共有するのはもどかしくもあり、しかし楽しいものでした。また震災に関する発表では、東北出身の学生が実体験を交えながら、私たちに震災を忘れないことの大切さを伝えてくれました。ヴァッサー大学の、日本にゆかりのある学生は、震災発生後に自分たちで作詞作曲した曲を演奏してくれ、離れていても日本のことを思っている人はたくさんいるのだと、わたしたちに気付かせてくれました。

私は学生代表として本フォーラムにかかわったわけですが、参加している学生たちを見ていて、真剣な表情を多く見ることが多かったことに嬉しさを感じています。もちろん、笑顔もたくさんありました。留学生たちの日本語レベルは様々で、フォーラム中の講演内容によっては理解がやさしくないものもあったはずですが、そのような状況の中、ただ楽しいだけではないフォーラム、少し無理をしても様々なことを学ぶフォーラムを提供できたことは、ゲスト側・ホスト側両方の学生にとってやりがいのあるものであったと信じています。なかでも3.11当日は、農林水産省を訪問し、震災後の被災地の食品の消費拡大・輸出促進についての日本の取り組みについての講演を聞いたり、日比谷公園で解されていたPeace On Earthに参加し黙とうをささげたり、私たちなりに震災を考える・忘れない1日を作ることができたと感じています。参加したみなさんも、同様に感じてくれていることを願います。

今回のフォーラムは、「3.11を越えて：グローバル社会のための対話と協働」とのテーマのもと、8日間にわたって多国間の交流、ディスカッション、フィールドワークなどを通してわたしたちが、もしものことが起こった際にできることは何かについて考えましたが、それは、1年に1回の大変有意義な時間になりました。

終わりに、このフォーラムにかかわったすべての人々のご活躍をお祈りして、私の挨拶といたします。